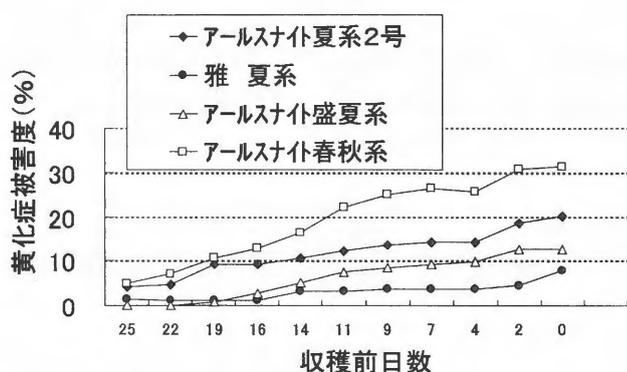


事項	メロンのハウス抑制栽培における黄化症の軽減対策		
ねらい	<p>ハウスメロンの無加温抑制栽培では収穫前に葉色が黄変する黄化症が発生し、これによって糖度が低下し、肉質が劣るなどの品質への影響が大きく、高品質生産の拡大を阻害してきた。</p> <p>黄化症は温湿度の急激な変化や交配、果実肥大に伴うストレスが重なることで発症すると推察され、これを回避するため、品種、定植期、結果枝上位葉数についてその効果を検討したところ、効果が認められたため、参考に供する。</p>		
指導内容	<p>1 品種の選定 株への着果負担を減らすため、開花から収穫までの期間が短い夏系の品種を選択する。</p> <p>2 定植期 黄化症の発生の少ない10月上旬に収穫できるように7月中旬までに定植する。</p> <p>3 結果枝上位葉数 誘引・整枝作業に支障のない程度にできるだけ多めとする。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>「黄化症」 葉脈を残し、葉の色が徐々に黄化する。症状が進行すると、糖度が低下し、ネットが不良となって、食味も劣る。</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 5px;">(黄化症程度4)</p>		
期待される効果	抑制栽培メロンの生産が安定し、作期・栽培面積の拡大がはかれる。		
利用上の注意事項	定植後、初期生育が進み過ぎないように寒冷紗などでハウス内温度を低下させる。また、地温が高すぎる場合、根を傷めないように白黒ダブルマルチなどで地温を低下させるなど、適正な温度管理に努める。		
担当	青森県農業試験場 砂丘分場	対象地域	屏風山砂丘地
発表文献等	平成10～12年度 青森県農業試験場試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】



黄化症被害率(%) =

$$\frac{\{1(\text{微}) \times \text{株数} + 2(\text{少}) \times \text{株数} + 3(\text{中}) \times \text{株数} + 4(\text{多}) \times \text{株数} + 5(\text{枯死}) \times \text{株数}\}}{5 \times \text{調査株数}} \times 100$$

耕種概要

播種日：7月3日
定植日：7月24日
収穫日：10月6～17日

図1 品種別黄化症被害度の推移 (平成12年 青森農試砂丘分場)

表1 品種別開花から収穫までの日数程度 (平成12年 青森農試砂丘分場)

品 種	開 花 日	収 穫 日	開花から収穫までの日数
雅 夏 系	8月17日	10月10日	55日
アールスナイト夏系2号	8月16日	10月14日	60日
アールスナイト盛夏系	8月15日	10月9日	56日
アールスナイト春秋系	8月14日	10月12日	60日

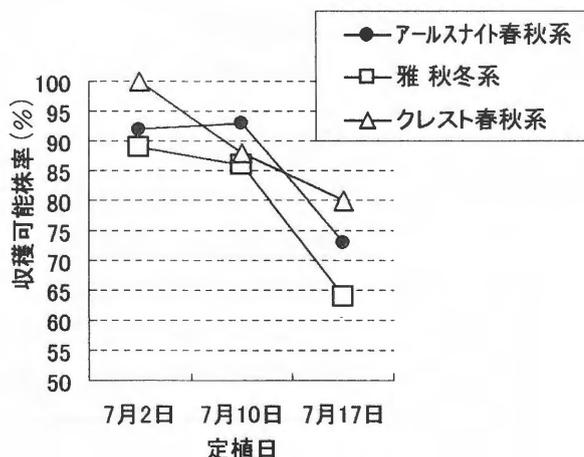
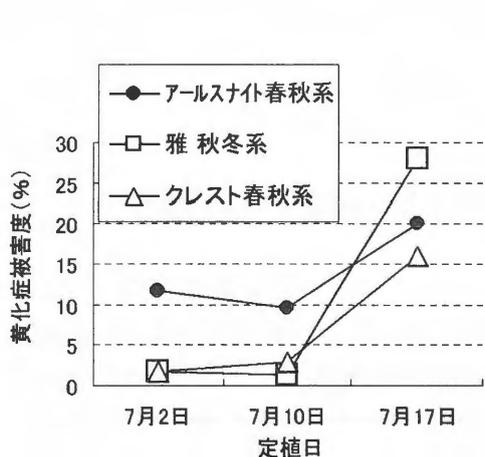


図2 定植期別黄化症被害度の推移 (平成10年 青森農試砂丘分場)

図3 定植期別収穫可能株率の推移 (平成10年 青森農試砂丘分場)

耕種概要

播種日：6月8、15、22日
定植日：7月2、10、17日
収穫日：9月24日、10月6、13日

収穫可能株：外観、Brix示度の良好な株

表2 結果枝上位葉数と黄化症 (平成10年 青森農試砂丘分場)

結果枝上位葉数	収 穫 時 黄化症程度	果 重 (g)	Brix (%)	ネット	食 味	着果節位	開花日
8枚	30.7	1,528	12.1	2.2	2.0	11.4	8月13日
12枚	8.0	2,007	14.5	4.1	3.7	11.2	8月14日

注) ネットの入り具合、食味を5段階(良：5～不良：1)で表示

耕種概要

品 種：アールスナイト春秋系
定植日：7月17日、収穫日：10月13日